

県政と皆様を結ぶ情報誌



県政報告

Vol.19

2023.3月発行

愛知県議会議員

神谷まさひろ



「日記形式での県政報告Vol.19」をお届けします。4年前に県議会議員に初当選させて頂いて以来、「県議会や県政を身近に感じてほしい」「自らの活動や考えをきちんと情報発信すべきだ」といった思いからこの「県政報告」を定期的に発行して参りました。紙面の都合上、十分な情報発信とは行きませんでした。県政や県議会のそして県議会議員の活動の一端を紹介することが出来たのではないかと考えています。今回のVol.19が任期4年の最後の発行となります。今回は2月定例会の中でも教育関係の事柄を中心に掲載してあります。4月以降も引き続き発行出来るよう全力で頑張ります。4年間ありがとうございました。



3.2 代表質問 教育委員会の関係を紹介します

2 月定例愛知県議会。今日は自民党・新政あいち・公明党それぞれ団長による代表質問が行われました。教育委員会に関する質問の中で個人的に関心のある分野の質問がありました。

- ① 県立普通科高校の魅力化について
- ② 通常の学級に在籍する子供への特別な教育的支援について
- ③ 医療的ケア児の通学支援について
- ④ 児童生徒の心のケアについて

の4つです。本来は全ての項目を紹介したいのですが紙面の都合上2項目について教育長の答弁概要を紹介します…

① 県立普通科高校の魅力化について

- ◎ 先行き不透明な時代の中でたくましく生きていくためには、自ら課題を見つけ、深く考え、解決していく力を身に付けることが何より大切。
- ◎ 普段から学校の外に出て、大学や地域の企業、自治体などの協力を得ながら探究活動を進めるといった、これまでの

教室内での学びにとどまらない学びに転換をしていくことが必要。

- ◎ 来年度から、地域社会が抱える課題などに関する実践的な学びを盛り込んだカリキュラムを、普通科高校2校において、モデル的に実施する。
- ◎ その2校における実践や、2025年と2026年の4月に開校する7校の探究学習重視型の中高一貫校における実践を、他の普通科高校にも広げることで、普通科高校における学びの活性化と変革を進めて行く。
- ◎ 施設の老朽化対策については、2029年度までの11年間で総額1,172億円、1年あたり100億円以上を投ずる。
- ◎ 具体的には、県立高校118校594棟で、外壁やトイレの改修、照明のLED化、内装のリフレッシュ工事を行うこととしている。
- ◎ 来年度は53棟の改修を行う予定。

④ 児童生徒の心のケアについて

- ◎ 小中学校におけるいじめや不登校が増加しており、これまで以上にきめ細かな心のケアを行うための相談窓口の充実や、様々な悩みや不安を抱えた子供たちの新たな受け

入れ体制の整備が必要だと認識している。

- ◎来年度は、小中学校におけるスクールカウンセラーの配置時間を、県全体で5,936時間、約1,000日分増やす。家庭環境等の課題に対応するスクールソーシャルワーカーについても、配置している市町村への経費の支援を拡充する。
- ◎学校以外の相談先として、現在の電話による「24時間SOS子供ダイヤル」に加えて、より気軽に相談できるSNSによる相談窓口を、小学校4年生から中学校3年生までの全員を対象に新たに開設する。
- ◎教室に入りづらい中学生の新たな居場所として、校内教育支援センター(いわゆる校内フリースクール)を、中学校2校にモデル的に設置する。

- ◎2025年度から施設に余裕のある全日制高校4校の中に、通信制のサテライト校と小規模の昼間定時制を設置し、生徒が自分のペースで学ぶことができるようにする。
- ◎2026年度には、不登校特例校の制度を活用した中高一貫校を日進高校に設置する。



3.4 ④

県政のことではありませんが… 興味深い「刈谷駅南側エリアのまちづくり構想」

ツ木地区の『地域を考える会』において県政報告をさせて頂きました。但し、国会議員による国政報告と市議会議員による市政報告に多くの時間を割きましたので、私は短めの報告に努めました。

蜂須賀市議の報告は、私も知らないことが多くあり非常に勉強になりました。「刈谷駅南側エリアのまちづくり構想」もその一つです。内容を紹介しますと…



- ①しげはら園(児童発達支援センター)
 - ・機能強化を目的として移転
 - ・移転後スペースは福祉施設として再整備(検討中)
- ②さくら保育園北園舎
 - ・現園舎は解体
 - ・跡地に児童発達支援センターを移転新設
- ③神田公園
 - ・テニスコートを廃止(新設公園内に整備)
 - ・多様な利用者向けの公園としてリニューアル
- ④住吉公園
 - ・公園を廃止(代替公園を新設)
 - ・テニスコートを廃止(新設公園内に整備)
 - ・救命救急病棟を新設
- ⑤新設公園
 - ・病院に近接する立地を生かして健康をテーマにした公園として整備
 - ・神田公園テニスコートと住吉テニスコートを集約

3.6 ④

公立高校への給食導入の提案 前向きな答弁

2 月定例愛知県議会。今日も一般質問で8名の議員が登壇しました。

私は学校の給食については「オーガニック化」や「給食費無償化」といったことを公約に掲げて訴えているのですが、今日の平松県議(自民党)さんの一般質問において「公立高校への給食導入」といった提案がありました。

確かに、共働き世帯の増加により、毎日の弁当作りを負担に感じる方も増えていると考えられますので、保護者の負担軽減につながる鋭い指摘であると感心しました。それに対して教育長の答弁は…

「2025年度から開校する中高一貫校の中学校におきましては、地元市町村の給食センターや、民間業者から提供を受ける方向で検討を進めております。中高一貫校の高校につきましては、給食センターに余力がある場合や、民間業者から提供が可能であれば、希望する高校生に提供することを検討してまいります。導入校において好評であれば、将来的には、他の全日制高校にも広げてまいります。」

かなり前向きな答弁でした。もしかしたら中高一貫校となる刈谷高校に給食が提供される日は近いかもしれませんね。

3.9 木 ▶ 本会議場で議案質疑を行いました

2 月定例会の議案質疑を行いました。テーマとしては「有機農業の推進」です。

有機農業推進のために、国のみどりの食料システム戦略の出口戦略に位置付けられている「有機農産物を給食で使うこと」について、県立特別支援学校の給食で使用する有機食材を購入した際、慣行農業での食材との価格差を県が負担する考えはないかといった視点で質問しました。教育長の答弁要旨を紹介します…

- 学校給食における有機農産物の利用については、子供たちがより安心して食べられることや、環境負荷の低減、有機農産物を作る農家の経営の安定など、様々なメリットが考えられる。
- 一方で、学校給食において有機農産物を利用するには、一般的な方法で生産された農産物と比べて価格が割高で、大きさや形が不ぞろいで調理に手間がかかるなどのデメリットもある。
- 県立特別支援学校の給食で有機農産物を利用する際の価格差を県が負担することについては、こうしたメリットとデメリットを考慮しながら、十分に検討を行う必要が

あると考えている。

- ほとんどの県立特別支援学校は校内の施設で調理を行っており、小規模の学校もあるので、有機農業の関係者とも相談し、協力を得ながら、モデル的に年に何回か、「愛知を食べる学校給食の日」などに、有機農産物を取り入れたいと考えている。
- 給食に有機農産物を取り入れることは、食育の面でも大変意義があるので、有機農産物を使った、より安心でおいしい給食を子供たちが笑顔で食べられるよう取り組んでいく。

「モデル的に年に何回か有機農産物を取り入れたいと考えている」「給食に有機農産物を取り入れることは、食育の面でも大変意義がある」…この答弁が少し前向きかなと評価しています。



3.11 土 ▶ 熊地区での県政報告会を開催

熊 地区での県政報告を行いました。私の事務所が主催したものではなく、熊地区の有志の皆さんが開催してくれました。

今日は3.11、東日本大震災が発生してちょうど12年です。冒頭に全員で黙祷した後に、先日の政務活動費に関

する件を説明しお詫びをしてから、県政報告をさせていただきました。

「ジブリパークの2期開園エリア」「STATION Ai」「新体育館(国際アリーナ)」「アジア大会・アジアパラ大会」「基幹的広域防災拠点」「セントレア第2滑走路」など愛知県が今後予定している大型プロジェクトの説明をした後、私が現在取り組んでいる「有機農業」「オーガニック給食」「給食費無償化」の話をして、最後に県議会における私の役割について話をしました。

質疑応答の際に皆様から戴いた暖かい激励の言葉に目頭が熱くなりました。企画・設営して下さった皆様、参加して下さいました皆様、本当にありがとうございました。



3.12 月 ▶ 4年ぶりの消防団観閲式 女性団員の活躍も

4 年ぶりに開催された刈谷市消防団観閲式に来賓として出席しました。

昨日は東日本大震災から12年となりました。あの震災の際にも消防団の皆さんが、自らの危険を省みず尽くされ

ました。仕事や学業との両立でボランティアとして刈谷市民の安心・安全に向けてのご尽力されている団員の皆様に心から敬意を表します。

観閲(服装点検)⇒分団行進⇒挨拶⇒表彰⇒衣浦東部

広域連合消防音楽隊による吹奏楽演奏⇒一斉放水⇒団長謝辞⇒火の用心三唱といった流れで進みました。



知事の名代が挨拶の中で触れられた、愛知県で行っている消防団支援策を2つ紹介します…

①あいち消防団の日

消防団への理解促進と消防団員の確保を図るため、毎年1月20日を「あいち消防団の日」と定め、県内で一斉に加入促進活動を展開しています。

②消防団応援の店

店舗や事業所等に「消防団応援の店」として登録いただき、消防団員や消防団員を支えている家族に料金割引などの

サービスを提供することにより、消防団員を応援していただくものです。

消防団にもここ数年女性の団員が増えて来ました。そして10月21日(土)には東京臨海広域防災公園において行われる『第25回全国女性消防操法大会』に愛知県代表として出場することが決定しました。各分団から女性消防団員が集まり、この大会に挑みます。皆様の応援をよろしくお願い致します。

3.20 月 4年間の最後の本会議

2 月定例愛知県議会の最終日。そして今日は任期4年間の最後の本会議でもあります。

4年間大村知事を近くで見て、その行動力やリーダーシップ・先見性、そして何事にも手を抜かない姿勢を改めて高く評価すると共に、県議会における私の果たすべき役割や使命といったことを改めて考えてみました。ひと言で表現すると「特急列車と鈍行列車」です。

特急列車と鈍行列車

以前、中日新聞に知事とは西尾高校時代の同級生であるS氏の言葉が載っていました。

「高校時代の大村さんはとにかく頭が良かった。1年生の1学期から3年生の3学期まで、ずっと学年1位の成績だったと思います。それでいて学力をひけらかすようなことはなく、慕われていましたね。」

「高校時代から、東京大学に進学して官僚になり、政治家になるという進路を決めていました。その後はその通りに東大に行き、農林水産省に勤め、衆議院議員になって今は知事をやっている。有言実行ですね。」

当時この話は私のいた刈谷北高校まで轟いていました。「西尾高校に大村あり」と。そのため私が高校時代につけていた日記の中には、他校の学生である大村さんの名前が3回も出てくるのです。

今の知事を見ているとあの頃のまま、愛知県を日本一元気な県にするために、「ジブリパーク」「スタートアップの支援拠点STATION Ai」「新体育館(国際アリーナ)」「アジア競技大会・アジアパラ大会」「中部国際空港第二滑走路」など様々なプロジェクトを立ち上げ産業力を高め雇用を創出、ビジョンを示しその実現に向けて正に「有言実行」、自らが先頭に立って特急列車の如く目的地に向かって走って行く…素晴らしいリーダーだと思っています。

しかし、特急列車に乗り遅れた人もいるはず。周りの景色を楽しみながらゆっくりとした旅がしたい人もいるはず。

大村知事が特急列車ならば、私は鈍行列車。鈍行列車でもいつか必ず目的地に着くことが出来ます。特急と鈍行、その両方がバランスよく組み合わさって始めて、旅は魅力的なものになるのだと思います。

【障がい者・高齢者・子どもなど 弱い立場の方に優しい政治】

私はこれからも県政の場で、そのような役割を担って行きたいと思っています。変わらぬご支援のほど宜しくお願い致します。

